

歴史ある庭園です

「小田急 山のホテル」は、三菱4代目社長である岩崎小彌太男爵が、1911年(明治44年)に別邸を建てた由緒ある地にあります。現在のホテルの庭園には、約70品種3000株のツツジと約40品種300株のシャクナゲが植えられています。これらも、別邸を建築する際に男爵が植えたもので、貴重な古品種が多数残っています。



岩崎小彌太男爵と孝子夫人



QRコードで花の情報を
このパンフレットに掲載されている花々には、QRコードが表示された植物看板が設置されています。スマートフォンでQRコードを読み取り、花の写真や情報をご覧ください。

ツツジ(約70品種3000株)

- ①八重げら**

江戸キリシマ系の赤い小さな花が特徴。庭園中央にあるこの品種の株は、庭園内で一番大きく、高さ、直径ともに3メートル以上あり、その大きさに圧倒されます。
- ②難波渦**

クヰメツツジの一種。花は、中輪一重、淡丹紅色で、花色は緑が濃く、中心に向かって白くなっています。明治初期に作出された品種です。
- ③飛鳥川**

淡紅の地色に濃紅の絞りが入るオオヤマツツジ系の花。関東の古い庭園に稀に栽培されますが、園芸的な生産はほとんどないと思われる、希少品種です。
- ④小紫**

花は、中輪一重で、光沢のある紅紫色。小紫は、オオヤマツツジ系の紫色品種の総称で、かつては数品種が記録されましたが、現在では区別ができなくなりました。希少品種。
- ⑤白錦**

白滝(しらたき)とも呼ばれています。中輪二重、白色。がくが不完全に花弁に変化し、縁が不規則に切れ込んだ花が咲きます。稀に関東地方の歴史ある庭園で栽培されている希少品種です。
- ⑥峰の松風**

花は大輪一重で、白地に紅紫色の絞りが入りますが、絞りの数は少なく一見白花のように見えます。明治時代以降、各地の種苗会社で販売されてきましたが、現在は生産されていないようです。
- ⑦紫琉球**

薄紫色の大輪、一重咲き。花弁は上部の3枚の切れ目が浅く、下部の2枚と離れて見えます。ブロッツ(斑点)は濃紫。現在は、園芸的な生産はないと思われる希少品種。
- ⑧若鷺**

大輪一重、薄肌色。春以外秋にも咲くことがあります。江戸時代に本品種名は見られませんが、明治から大正にかけて各地で販売されていました。歴史ある庭園に植栽されていることがある希少品種。
- ⑨ゴヨウツツジ**

シロヤシオとも呼ばれる、落葉低木。枝先に5枚の葉をつけ、春に下垂する白花を咲かせます。夏季冷涼な気候に生育し、敬宮愛子内親王のお印であるために話題になり、販売されました。

シャクナゲ(約40品種300株)

- ⑩ゴマー・ウォーター**

花は大輪、白色で薄藤色が入り、ブロッツ(斑点)は黄茶色。イギリスで1900年以前に作出。本品種は、岩崎小彌太が日本で初めて導入した西洋シャクナゲと言われています。
- ⑪マイケル・ウォーター**

花は中輪で、色は濃暗紅色。花の奥に暗色のブロッツ(斑点)があります。現在は園芸的な生産はなく、現存数も少ないため、希少な品種。イギリスで1865年頃作出されました。
- ⑫ノバ・ゼンブラ**

花は大輪、暗紅赤色で、濃色のブロッツが入っています。戦前から戦後にかけての赤色の代表品種で、耐寒性が強いのが特徴。オランダで1902年に作出された、希少品種。
- ⑬ステラ・ウォーター**

花は中輪で、少し紫がかったピンク色。ブロッツは濃色で目立ちます。商業的な生産はなく、栽培も非常に少ないと思われる希少品種。イギリスで1865年以前に作出。
- ⑭キョウマルシャクナゲ**

日本原産のシャクナゲで、長野県、静岡県、愛知県の山地に分布しています。ツクシシャクナゲの変種で、環境省絶滅危惧Ⅱ類。蕾は濃ピンク色ですが、咲くと淡ピンクに変化します。
- ⑮フォーチュネイ**

中国に分布する野生種のシャクナゲ。7枚花弁のピンクの花が咲き、葉は長い。19世紀に中国からヨーロッパに渡り、多くの園芸品種の交配親となっています。この庭園には多数の株があります。